

広島県公立高校出題傾向と対策／国語

傾 向

【 概 要 】

国語の入試は大問4題から構成され、それぞれ文学的文章、説明的文章、古典、小論文というのが基本的な出題形式となっています。しかし、2020年度入試では大問2で随筆に近い作品が出題されており、必ずしもこの4分野からそれぞれ出題されるものでないという前例を作ったため今後の動向には注視をする必要があります。過去3年の平均点は23.5→23.6→26.5と推移しており、やや易化傾向にあり全科目の中では比較的平均点が高めの教科となっています。得点源となる教科であり、5科目の中で最初に行われる科目ですから、国語の失敗は合否に大きな影響を及ぼす可能性があります。しっかりと演習して高得点を目指しましょう。設問の全体的な傾向としては、記号選択問題や本文からそのまま書き抜いてくる問題は減少傾向にあり、文章読解力・表現力・記述力を試す問題が増えてきているのが大きな特徴です。また、その記述問題の中には200字以内で書かせるものも出題されています。2020年度入試では、漢字の読み書きが3問ずつ6問(前年度は4問)、記号選択問題が5問(前年度も5問)、熟語の構成が1問、接続語が1問、語句・文章の抜き出し問題に至っては出題されず(前年度は1問)、記述問題が9問(前年度は10問)出題されました。

【分野別傾向】

文学的文章では、随筆の出題は極めて少なく今まで小説・物語がよく出題されてきており、特に近年では横光利一や川端康成、志賀直哉など大正から昭和にかけて活躍した作家の書く文章が出題されています。説明的文章では、中学生ではややとらえにくい抽象的なテーマに関する文章が多く出題されてきましたが、先述の通り2020年度入試では説明的文章は出題されませんでした。今後の出題内容には注意が必要でしょう。古典では、「御伽草子集」という物語集からの出題でした。漢文は2019年度入試に久方ぶりに出題されましたが二年連続での出題はありませんでした。来年以降出題される可能性はありますので、漢文の基礎知識は一通りチェックして演習しておきましょう。小論文形式の問題は7年連続大問4として出題されましたので、今後も150～250字程度の長文記述が出題されそうです。

対 策

【分野別対策】

文学的文章

文章中に書かれていること(あらすじや登場人物の心情など)を正確に読み取り、自分勝手な思いこみをしないことが大切です。「私はこう思う」から一歩進めて、「普通ならこう思うはずだ」という、より客観的な視点を持つように普段から意識して文章を読むトレーニングをしましょう。

説明的文章

まず、筆者の言いたいこと、つまり主題は冒頭もしくは最後の一段落に示されていることがほとんどです。それを正確につかむことが必要です。段落の全体的な構成は概ね『導入(プロローグ)⇒問題の提示⇒問題の考察⇒まとめ』のようになっています。

これらの流れの中で、それぞれの段落の役割を把握することが重要です。対策としては、教科書の論説文の書き出しが意外と効果的です。

古 典

古典は何よりも慣れ親しむことが大切です。教科書の古典の暗唱・音読が非常に効果的です。また、過去問を中心とした問題演習もしっかりとやっておきましょう。

小論文

「資料を客観的に読み取る」「自分の意見・理由を整理する」「それらをわかりやすくまとめる」といった練習が必要になりますので、普段の生活で見聞したものに対し常に自分の意見を持ち、それを文章にまとめる訓練をすると良いでしょう。

【設問別対策】

指示代名詞の内容把握は読解の基本ですから、前後3行を中心に指示内容をつかむ練習をしっかりと行いましょう。説明的文章では各段落の要点を表にまとめ、その内容を書かせる問題が近年連続して出題されています。段落ごとの相互関係を意識しながら読解する訓練を積みましょう。また、段落ごとの要約の練習もしておきましょう。古典の歴史的仮名遣いは、読んだとき違和感のある「は・ひ・ふ・へ・ほ」⇒「わ・い・う・え・お」や「ゐ・ゑ・を」⇒「い・え・お」など基本的な書きかえの練習をしておきましょう。また「すべてひらがなにして」などの指示をよく読み、ケアレスミスのないように普段から心がけましょう。漢文の書き下しでは、「レ点、一・二点」などの読む順序や、助詞や助動詞はひらがなに直すなどの基本を確認し身に付くまで演習して下さい。

出題内容		25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年
文学的 文章	1. 漢字（読み）		○	○	○		○	○	
	2. 漢字（書き取り）	○				○	○		○
	3. 適語補充（記号選択）		○						
	4. 適語補充（適切な表現）	○				○			○
	5. 適語補充（抜き出し）	○							
	6. 記述（心情説明）	○	○				○	○	○
	7. 記述（内容把握）	○		○	○	○	○	○	○
	8. 抜き出し（心情把握）								
	9. 段落分け								○
	10. 記号選択（慣用表現）								○
	11. 記号選択（心情把握）	○	○	○	○		○		
	12. 記号選択（四字熟語・慣用句・ことわざ）			○					
	13. 記号選択（心情説明）				○		○		
	14. 記号選択（内容把握）		○		○	○			○
	15. 記号選択（文章挿入）								
説 明 的 文 章	1. 漢字（読み）	○				○			○
	2. 漢字（書き取り）		○	○	○			○	
	3. 適語補充（記号選択）					○			
	4. 適語補充（適切な表現）					○	○		
	5. 適語補充（抜き出し）	○	○	○	○	○	○		
	6. 記述（内容把握）	○	○	○	○	○	○	○	○
	7. 記述（理由説明）			○				○	○
	8. 記述（段落要点）				○			○	
	9. 指示語の指示内容	○					○		
	10. 段落分け							○	
	11. 記号選択（接続詞・副詞）	○		○	○				○

広島県公立高校出題傾向と対策／社会

傾向と対策

全24問のうち、記述問題が15題、記号問題4題、語句記入問題が5題となり、配点50点のうち昨年と変わらず、実に40点が記述問題です。地理的分野、歴史的分野及び公民的分野の3分野にわたって、基礎的・基本的な知識・理解、各種の資料を活用して考察する能力及び考察した過程や結果を表現する能力が問われた出題となりました。問題構成は昨年と同様で大問4つの構成でした。各大問では一つのテーマに沿って出題がされております。大問1が地理分野、大問2が歴史分野、大問3が公民分野から出題ですが、それぞれ融合問題にもなっており、ともにあるテーマに沿って関連した問題が3年連続で出題されました。大問4は例年通り総合分野からの出題で、地方公共団体の活性化を題材として、地理的・社会的事象について、資料を読み取って考察し、表現する問題でした。今後同様の傾向が続くことが予想されます。

ここ数年、問題にかかわる文章が長くなってきており、さらにはより多くの資料・グラフが用いられています。記述問題が多いこともあり、問題を短時間で読み取って解く訓練が必要です。

【地理の傾向と対策】

2019年度は茶の生産を素材として取り上げ、日本地理・世界地理の融合問題としての出題、うち6題中4題が短めの記述問題で、いずれも資料を読み取って考察し、表現する問題でした。今後も同様の傾向が続くことが予想されるので、世界地理・日本地理のいずれかに偏った学習ではなく、日本と世界の関わりを中心とした、教科書や地図帳の統計資料などから何が読み取れるのかを意識しながら学習していく必要があります。

【歴史の傾向と対策】

メモ形式でまとめられた時代別の税と政治の仕組みが基本テーマであり、地図や資料を読み取って考察する設問となりました。7問中5問が記述問題でした。今後もあるテーマに沿って広い時代にわたっての出題が予想されるので、各時代の産業や生活、文化、事件等の基礎知識が必要です。資料をもとにした記述力を要求する問題がほとんどですが、教科書内容を精読し歴史事象に対する理解力を深め、記述問題演習を積めば十分に対応できます。

【公民の傾向と対策】

今年度は裁判と国民のかかわりを題材とした融合問題で、定期テストで学習したレベルの問題が多く出題されています。最近の傾向として、与えられた課題についての自信の解決策を表現させる問題が出現されるようになりました。これまで以上に、ある事象・問題に対して自分の意見が表現できる訓練が必要とされています。公民も他の分野と同様に、あるテーマに沿って、様々な資料やグラフを通しての特徴を読み取った記述問題が出題されています。そして地理と同様に、教科書などに載っている資料・グラフを利用して、そこから特徴を読み取りノートにまとめる学習は必須です。環境問題や少子高齢化などの社会問題について様々な角度から考察し、ノートにまとめることも重要な学習になります。今年は特に公民分野は学ぶ時期が遅くなり、理解が深まるまでの繰り返し学習がなかなかできません。入試に向けて早めの学習が必要です。

		出 題 内 容	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年	
地理分野	地理	地球儀と地図(経線・緯線・時差など)	○	○	○	○						
		世界の国々(地形・言語・宗教・気候など)	○		○		○					
		日本のすがた		○						○	○	
		身近な地域(地形図)		○	○							○
		都道府県の調査(日本各地の様子など)		○		○		○	○	○	○	
		世界の国々の調査(世界各地の様子など)			○	○	○	○				○
		日本の国土・人口			○	○		○				
		日本の産業・資源・貿易	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		環境問題	○	○		○	○					
歴史分野	近世以前	古墳時代まで	○							○		
		飛鳥時代		○	○					○		○
		奈良時代		○	○	○			○	○	○	
		平安時代		○	○		○	○	○			
		鎌倉時代	○	○			○	○	○			
		室町時代		○	○	○	○			○	○	○
		安土桃山時代	○	○	○	○	○			○	○	
		江戸時代		○		○	○	○	○	○	○	○
	近代	明治時代	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		大正時代		○		○	○			○		
		昭和時代	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		平成時代					○			○		○
	公民分野	民主政治	日本国憲法	○		○						
国会					○							
内閣				○	○				○	○		
裁判所				○						○		○
地方自治				○		○	○					
選挙・世論					○							
民生		物価			○	○				○		
	金融								○			

広島県公立高校出題傾向と対策／数学

傾 向

【概要】

令和2年度は小幅ではありますが、昨年と同様、設問数の変更がありました。大問数の変更はなく6つのままでした。また、小問数も30年度の20問から1問ずつ減って18問まで減少しました。平均点は30年度22.4点、31年度21.0点となり難化していたのですが、R2年度では28.2点で大きく上がりました。大問1では昨年同様8問出題され、計算5問、投影図や比例定数、確率などの基本的な知識を問う問題が出題されました。今後しばらくは同様の傾向が続くと思われます。大問2では標本調査、線分の長さ、速さを使った方程式の文書題から基本的な知識と考え方を問う出題となっています。大問3では資料の整理について最頻値、相対度数を求める出題となっています。大問3では文字式を使った説明、その応用問題、大問5では円を使った三角形の合同の証明、大問6では2次関数と1次関数の融合問題でした。難易度については、21年度まで難易度が上がっていき、近年は易化しておりましたが、29年度から再び難化傾向になりました。しかし、昨年は易化しております。

【問題数・出題割合】

令和2年度は解答すべき問題数は18問で、学年別の出題割合で見ると、中1内容が3割、中2内容が3割、中3内容が4割の割合で出題されています。

【分野別傾向】

計算分野

令和2年度の問題数は31年度と比べ1問増加し5問で、正負の数の四則混合計算・文字式の計算・因数分解・平方根・2次方程式の計算が出題されました。

関数分野

図形と融合されて出題される傾向があります。令和2年度は2次関数と1次関数の融合問題で三角形の面積を求める問題・線分の長さを利用して考える問題でした。2問とも少し捉えにくい内容でした。

図形（証明）分野

令和2年度は円周角の定理を用いて直角三角形であることを示す証明を行う問題でした。素直な内容でしたので当たり前の学習ができている受験生は正答を導きだせたはずですが、今後も最後の1問5で完全記述式の証明問題が出題されることが予想されます。

対 策

計算分野

基本的事項を中心として出題されているので、すべての領域で基本的な計算問題に慣れておく必要があります。ケアレスミスの多い生徒は、計算の途中の過程を丁寧に書かない傾向にあるため、日頃の習慣が大切になります。確実な得点源にしましょう。

関数分野

苦手意識の強い生徒が多い分野ですが、直線や放物線の式や交点の求め方を始めに理解し、面積の求め方の順に演習すれば、応用問題にも対応できます。また、動点に関する問題にもあたっておくべきです。関数は高校数学でも最重要領域であることを意識して学習に取り組んで下さい。また、日頃からグラフを描く作業を怠らぬに行いましょう。

図形（証明）分野

図形（証明）の分野でのポイントは、完全記述式の証明問題になります。完答できる実力の養成が、得点の大きな分かれ目になります。また総合力を養成するためには、図形と三平方の定理の融合問題や応用問題に数多くあたるのが効果的であるといえます。毎日少しずつでも数学と向き合い、出題、解法のパターンを身につけましょう。また、教科書改訂に伴う新単元分野についても要注意です。

説明記述や作図問題について

令和2年度は昨年同様説明記述問題が多く、方程式の式とたて解き方を記述する問題が出題されました。まずは教科書内容については完全な理解が必要です。その上で多くの問題にあたり、様々な解法パターンを身につけておく必要があります。

	12. 四角形		○	○	○	○	○	○	○	
	13. 確率の基礎 (場合の数)			○						
	14. 確率		○	○	○	○	○	○	○	○
中 3 領 域	1. 多項式の乗法									
	2. 因数分解 (素因数分解)		○	○	○		○			○
	3. 平方根						○	○		
	4. 平方根の計算		○	○	○	○			○	○
	5. 2次方程式の解き方 (解の公式を含む)		○	○	○	○				○
	6. 2次方程式の応用								○	
	7. 2乗に比例する関数		○	○	○	○	○	○	○	○
	8. いろいろな関数 (動点の問題)									
	9. 円と円周角 (円周角の定理の逆を含む)					○	○	○	○	○
	10. 相似な図形		○	○	○				○	○
	11. 相似・相似の応用 (面積比・体積比を含む)		○	○				○		
	12. 三平方の定理		○	○	○	○	○	○		○
	13. 三平方の定理の応用								○	
	14. 資料の活用 (標本調査)					○		○		○

広島県公立高校出題傾向と対策／理科

傾 向

【概要】

2020年度も大問4問の形式でした。大問1がエネルギー分野、大問2が地球分野、大問3が生命分野、大問4が物質分野からの出題形式でした。2020年度は2019年度と同様に記述式の問題が多くなっており、ここ数年の傾向通り実験や観察を基にした問題が多いのが特徴です。さらに完答問題が増えていたので得点しづらい傾向となっています。以上から「考える」学習が必要であるように思えます。

【分野別傾向】

エネルギー分野

実験を基にした出題傾向が強く、手順・器具・留意点などの基礎知識や関連事項を問う内容になっています。文で答える問題やグラフ・図で示す問題も頻出です。

物質分野

グラフや表を読み取り、その数値を基に解答するパターンが中心で、計算問題もよく出題されています。グラフや図を書かせる問題も出題されやすくなっています。

生命分野

観察・実験を通して出題される傾向が強いです。問題内容は関連する基礎的知識を用語や文章で答える形式が多くとられます。

地球分野

図・表（記録）・グラフを読み取る力を必要とし、系統だった理解が要求されます。

対 策

【分野別対策】

エネルギー分野

法則や原理を理解した上での公式の暗記と計算問題の練習が必要です。また図やグラフの読み取りにも慣れておきましょう。2021年度は光や音、電流の出題が予想されます。

物質分野

実験と関連づけて理解することが大切です。また実験時の注意点は出題されやすいです。2021年度はイオンや中和、状態変化や気体の発生などの出題が予想されます。

生命分野

植物・動物・生物のつながりなどを分類し暗記することが大切です、学習量が得点に直結しやすい分野です。ただ、近年観察を基とした記述問題も増えてきているので、観察実験の意図までも理解してほしいです。2021年度は細胞分裂や遺伝、植物のはたらきに注目です。

地球分野

学習内容を図解で整理し、問題点を明確にすることが重要です。受験生が苦手とする内容が多く、この分野の克服が高得点には必須です。2021年度は天気、天体が要注意です。

【理科克服の一步】

4分野から構成されているので、1つずつ克服すれば必ず突破口が見えてくるはずですが、まずは基礎事項を徹底して身につけましょう。実験観察などの考察の記述問題や完答が多いので、教科書内容をしっかり覚えていくようにしてください。

出題内容		25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年	
第 1 分 野	1. 身のまわりで 起こる現象	①光の進み方（直進、反射、境界面での屈折）		○						
		②凸レンズの働き（焦点、実像・虚像の作図）								
		③音とその伝わり方（音の高低・大小）								
		④力のはたらき（力の表し方・つり合い）			●	●		○		
		⑤力のはたらきと面積（圧力・気圧）				○	◎			
	2. 身のまわりの 物質	①物質の性質（物質の分類、密度）	◎							
		②気体の性質（気体の発生・性質、捕集方法）	○					○		
		③物質の状態（状態変化、蒸留）							○	
		④水溶液の性質（水溶液、再結晶）			○	○				
		⑤器具の使用法（上皿天秤、ガバナなど）	●							
	3. 電流と そのはたらき	①電流の回路（電流・電圧・抵抗）	●							
		②電流による発熱（電力、発熱量）	○		◎					
		③電流のはたらき（磁界、モーター）			◎		◎		○	
	4. 化学変化と 原子・分子	①物質と化学変化（化合・分解）		○						
		②物質の成りたち（分子・原子、化学反応式）	●	○		●	●			●
		③金属と酸素の化学変化（酸化・還元）					○	●		●
		④化学変化の規則性（質量保存の法則）				○	●			○
	5. 運動と エネルギー	①物体の運動（速さ・落下・等速直線運動・慣性）						●		
		②力学的エネルギー（位置・運動エネルギー）						●		●
		③エネルギーの移り変わり（エネルギーの保存）			◎	●		●		○
		④仕事（仕事率・てこ・滑車・斜面の利用）			○					●
	6. 化学変化と その利用	①化学変化とエネルギー（化学エネルギー、電池）								
		②熱の伝わり方（伝導・対流・放射）			◎					
		③電気分解とイオン（イオン式・電離・中和）			●					
	7. 科学技術と 人間	①エネルギー資源（発電方法）								
②科学技術（新しい技術、環境への影響）		◎				◎				

第 2 分 野	1. 植物のくらしと 種類	①身近に見られる生物（顕微鏡の使い方）					○				●		
		②植物のふえ方（花のつくり、ふえ方）											
		③葉のつくりとはたらき（光合成・蒸散）	◎					○	●	●			
		④水や栄養分を運ぶ仕組み（根・茎のつくり）						●					
		⑤植物のなかま分け（種子植物の分類）		○			○	●			○		
	2. 大地の変化	①火山（火成岩、造岩鉱物）				○							
		②大地が変動する（地層のでき方、化石）											○
		③地震（震度とマグニチュード）								○			
	3. 動物のくらしと 種類	①動物たちの生活（動物の分類・生活）		○									○
		②感覚と運動（感覚器官・神経系）								○			
		③生命を維持する働き（消化・循環・排出）			○								
	4. 天気の変化	①雲と降水（飽和水蒸気量・湿度・雨や雲）							◎				
		②大気の変化（等圧線、高気圧・低気圧）							◎				
		③大気と天気の関係（気団、前線）	○										
	5. 生物の細胞と 生殖	①細胞と生物の成長（細胞のつくり・成長）					●						
		②生物のふえ方（生殖・遺伝）	○						○				
	6. 宇宙と その中の地球	①地球の自転と天体の動き（自転、日周運動）					●						
		②地球の公転と天体の動き（年周運動、季節）					○	●					
		③太陽系の天体と地球（太陽・惑星・月）		○					○			○	
	7. 自然環境と 人間	①生物のつながり（食物連鎖、物質の循環）		○					◎				
		②人間と環境（自然観察・環境問題）		●									
③自然と人間のかかわり（災害のしくみ・対策）													

○は大問としての出題 ●は小問としての出題 ◎は総合問題としての出題

広島県公立高校出題傾向と対策／英語

傾 向

【概要】

近年出題形式が大きく変わり、難易度が高くなっています。出題形式はほぼ昨年同様でしたが、文章量や解答に必要な記述量が多くなっています。放送される英語の内容を理解する能力、英語によるコミュニケーション能力、英語長文を総合的に理解する能力、日常生活における英文の資料を読み取る能力をみる内容となっています。より実用的で高度な英語の力が問われるようになってきているといえます。

【問題数・出題傾向】

大間はリスニング・対話文・長文読解・自由英作文の4題。小問数は20問程度で、そのうち文脈や場面に応じて、適切な語句・英文を使うことができるかどうかを問う記述問題が約7割を占めています。

【出題構成からみた傾向】

放送問題

A問題・放送を聞いて、対話の概要や要点を理解し、質問に対する応答として正しい英文や図を選ぶ形式が4題あります。

B問題・放送される英文の概要や要点を理解し、質問に対する自分の考えを完全な英文で書くという形式の問題に変わりました。そのため難易度が高くなりました。

対話文

図や表を使った対話文となっています。場面と人物の関係を正確に読みとる力や文脈にそって対話を行うことができる力が問われています。適語補充・英作文・適語選択・適文補充・会話能力・内容把握などの問題が出題されます。適文補充の問題は最後まで英文を熟読しなければ解けない内容となっています。今年も文章量が多く、25語程度の自分の考えを表現させる自由英作文が出題されるなど難易度が増しています。

長文読解

与えられた長文の内容に関して、日本語や英語で答える形式の質問や語順整序・指示語・自分の考えを英文で表現させる問題・適文補充などさまざまな形式で出題されています。各設問とも解答に必要な文字数が増え難易度が増しています。状況に応じた語句を考え、自由に表現する力が問われています。

自由英作文

与えられた資料と対話文を読み、その内容に合うように自分の考えを英文で表現する問題が出題されています。読み取る資料・情報量が多くなっていますので要注意です。

対 策

【出題構成からみた対策】

放送問題

放送が始まる前に各問いのイラストや英文に目を通しておきましょう。イラストは柄や形、数など、英文は動詞の時制や目的語など選択肢の違いに注意して、放送を聴きましょう。日頃から自分の考えを英文で表現できるよう練習をしてください。

対話文

教科書にある対話表現、特に勧誘表現や依頼表現を再度確認しておくといよいでしょう。文法的には、不規則動詞の変化、不定詞、接続詞、分詞などを確認しておきましょう。

長文問題

長い長文を正確に読み取り、内容を総合的に理解する力がが必要です。また自分の考えを英文で自由に表現する力も問われています。教科書を使って中学校3年間で学習する単語・熟語・英文法を総合的に復習し、普段から英作文や長文の読解の問題演習を行っておく必要があります。長文読解問題はできるだけたくさん解いて訓練してください。

自由英作文

英作文対策としては、過去の問題形式に従って適切な代名詞を使い、主語・述語を含む英文で表現できるようにしておきましょう。

【入試直前まで続けていくと効果的な学習】

- ①長文読解問題演習の強化 ②教科書による対話文の学習 ③重要英文法の見直し
④自分の考えを述べる表現の練習 ⑤リスニング対策 ⑥英単語・熟語確認

以上の6点を入試直前まで続けていきましょう。

出題内容		25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	R2年	
リスニング	A Which /どちらの～(どちらか)			○	○		○	○	○	
	Why /なぜ～したか(～しようとするか)	○	○	○	○	○	○	○	○	
	When /いつ～するか(～したか)		○			○				
	Where /どこで～したか(～したいか)		○		○	○	○			
	What /何を～するか(～したか)、何ですか(何でしたか)	○	○	○	○	○	○		○	
	What time /何時に～するか(～したか)、		○						○	
	Who /だれが～したか	○								
	How /どのように～するか(～したか)								○	
	How many /いくつの～をもっているか									○
	How long /どのくらいの間～したか	○		○						
	Aは～するか(～ですか)、できるか、したことがあるか(～でしたか) ～はありますか	○								
	Aは～するつもりですか									
	B 尋ねられた事柄について自分の考えを表現する	○								
対話文を聞いて自分の考えを理由とともに表現する問題		○	○	○	○	○	○	○	○	
対話文	適文補充(部分英作文・英作文)	○	○	○	○	○	○		○	
	適切な文を選ぶ	○			○	○	○	○	○	
	適語補充(選択を含む)	○	○	○	○	○	○	○	○	
	内容理解(選択)			○					○	
	本文内容を日本語で説明する	○	○	○	○	○	○		○	
	内容を理解し、英語で答える	○	○	○	○	○	○	○	○	
長	内容を理解し、日本語で答える	○	○	○	○	○	○			
	名詞・代名詞・英文の具体的内容を問う	○						○		

文 読 解	適語・適文補充	○	○	○	○	○	○	○	○
	語順整序	○	○	○	○		○	○	
	内容を理解し、英語で答える	○				○	○	○	○
	内容にあっている文を選ぶ	○	○	○	○	○	○	○	○
	感じたことや考えたことを英語で書く（文脈にあわせて）	○		○	○	○	○	○	○
英 作 文	資料や対話文から判断してYes Noで答える問題		○						
	資料や対話文から判断して理由・根拠を英文で表現する問題		○	○		○	○	○	○
	その場に応じた応答を英文で表現する問題			○	○	○	○	○	○